

## 幼稚園・保育園の制服の形態とその考え方

原田 妙子・長谷川紀子

### An Investigation of Styles and Perceptions of Prescribed Kindergarten and Day Nursery Uniforms

Taeko HARADA and Noriko HASEGAWA

#### 緒 言

名古屋市において、小学校への就学時前に幼稚園・保育園に通っている園児の割合は、名古屋市教育委員会総務局によると平成5年度では5歳児・4歳児共に92%、3歳児は78%であり、平成6年度には、5歳児が92%、4歳児が91%、3歳児が80%と僅かではあるが増加の傾向にある。このように、幼稚園あるいは保育園へ通わせることが当たり前のようにつまみられており、ほとんどの子供が就学時前に園での社会生活を経験することになる。その子供たちが、小学校に就学したときには、その90%が自由服、10%が制服で通学しているといわれる<sup>1)</sup>。果たして小学校の前段階である幼稚園・保育園において、制服を必要とするか否かは疑問とするところである。

昨年我々は、幼稚園・保育園の制服の現状についてのアンケート調査を行い、60%に近い園において制服があり、その服種や価格、着用時間などの輪郭が明らかになった。しかし、それらの園の中で、今後検討を考えている園が19%、問題点があるとしている園は36%あり、更に制服というものの捉え方についても、かなりの差があるようにみられた<sup>2)</sup>ので、具体的に制服を検討する必要性を感じた。そこで本研究では、現在着用されている制服の形態について詳しく調査し、制服に対するそれぞれの園の考え方などを把握することを目的とし、調査を行った。

#### 方 法

アンケート調査は1996年7月に実施し、昨年同様郵送により配布し、回収した。

調査対象は、名古屋市内にある全部の公立、私立の幼稚園・保育園の内、昨年の調査で廃園となっていた園と、3歳児以下の保育園を除いた464園(幼稚園194園、保育園270園)である。回収率は、37.7%であり、内訳は幼稚園56園、保育園119園であった。

今回のアンケート調査内容は、形態把握のために、制服着用の季節を一年間共通、夏用、冬用、合用の4つに分けて、それらの有無、着用の場面、素材、また遊び着・体操着の有無についての回答を求め、指定された制服の形態、色を図に、それぞれのディテールの回答を記号で求めた。更に、昨年の調査において制服として備えているべきと考えられていた条件の中から、重要であると思われる13項目を選出し、現在着用されている制服に対する評価を「非常に悪い」から「非常に良い」に至る1~5の5段階尺度を用いて行った。

また、新たに制服のあるなしにかかわらず全ての園に対して、制服についての各園の意識を

具体的に把握するために、昨年行った調査結果より、制服および私服の利点・問題点として上げられた12項目を選出し、5段階尺度により回答を求めた。

結果は単純集計した後、幼稚園と保育園との間で、また制服のある園とない園との間で制服に対する考え方に差があると考えられるため、それぞれに分類して比較検討を行った。更に、5段階尺度による回答については、1～5点を与え、それぞれの平均値を算出し検討した。

### 結果および考察

#### 1. 幼稚園・保育園における制服の有無と着用場面

##### 1) 制服の有無

幼稚園と保育園での制服の有無と、着用季節について図1に示す

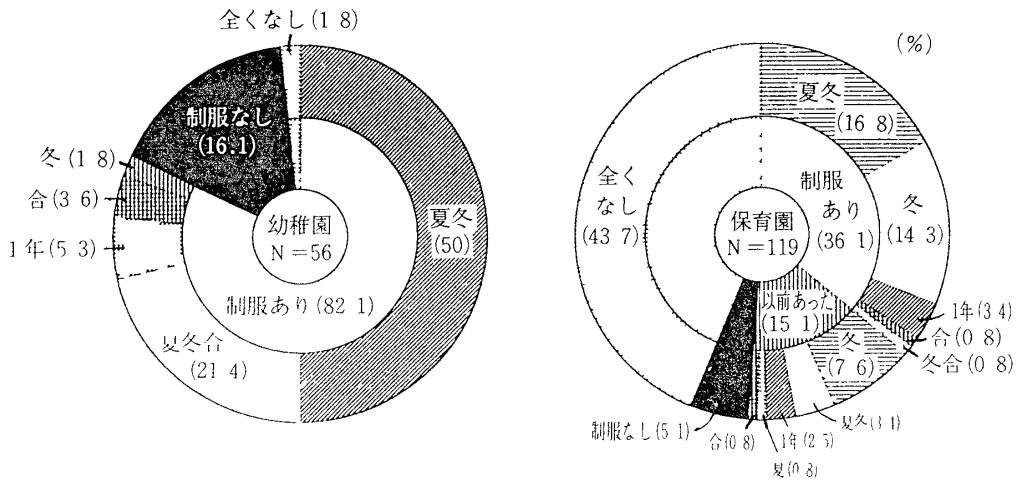


図1 制服の有無と着用季節

幼稚園では、制服があると回答した園は46園であり、回収した56園の82.1%を占め、保育園では43園で、回収した119園の36.1%を占める。なお、昨年の調査では幼稚園で78.7%、保育園で64.0%が制服があると回答しているが、この差は回答が得られた園が昨年と今年とて若干ずれていたためとみられる。また、幼稚園では制服以外に帽子や靴なども全く指定していない園は1.8%、制服の指定だけがない園が16.1%であるのに対して、保育園では全く何も指定していない園が43.7%、以前には制服があったが現在は廃止されている園が15.1%、制服だけがない園が5.1%と私服で通園させている園がかなり多くみられる。

今回の調査においては、幼稚園の80%以上で制服があるのに対して、保育園では半数以上が私服で通園させているという結果であり、両者で大きな差がみられた。そこで着用季節の違いについて

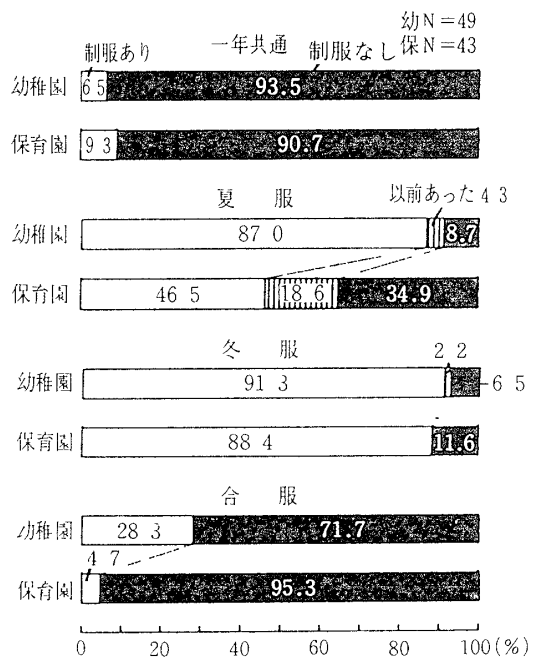


図2 季節別指定の状況

みると、多くの園で制服があると回答された幼稚園においては、夏服・冬服が指定されている園は、制服のある園の50%を占め最も多く、次いで夏服・冬服・合服と各シーズン毎に揃えている園が21.4%で、それらを併せると1年を通して制服がある園の割合はかなり高い値を示している。保育園においては、幼稚園と異なる結果を示し、冬服・夏服を指定している園が16.8%と最も多く、次いで冬服のみの指定がある園が14.3%と続き、合服の指定は僅かであった。これらのことから、制服の有無だけでなく園児一人が揃える制服の種類についても、幼稚園の方が多くっており、幼稚園と保育園との間に差が認められる。

次に1年間共通、夏服、冬服、合服の別に、それぞれの指定状況についての結果を図2に示す。幼稚園と保育園とを比較すると、1年間共通と冬服に関しては差は見られないが、夏服と合服については幼稚園が高い値を示している。また、夏服については、保育園において以前にはあったが今は廃止されているところがかかなりみられる。これは夏の暑い気候に対して制服が不必要と判断された結果ではないかと考えられる。

2) 着用場面

制服を指定している園において、それをいつ着用するかが、形態の決定要因の1つとなることが予想されるため、1年間共通、夏服、冬服、合服に分けて、その着用場面をみることにした。その結果を、それぞれで指定している園数に対する割合で図3に示すが、1年間共通および合服については、指定している園の数が僅かであったため省略する。

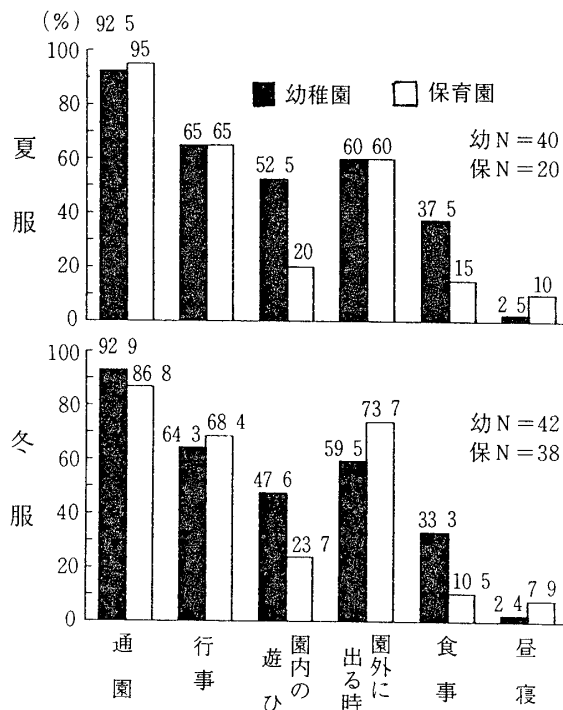


図3 制服の着用場面

通園時には、ほとんどの園で制服を着用しており、行事のある時には、半数以上の園で着用している。園内の遊び時間においては、幼稚園では夏服、冬服共に半数の園で着用しているが、保育園では少なく20%台の値であるのに対して、園外に出る時は、保育園で冬服を73.7%が着用しており高い値を示す。食事の時間には幼稚園では3分の1が着用しているのに対して、保育園ではわずかであり、更に昼寝の時には夏服、冬服共にほとんど着用していない。

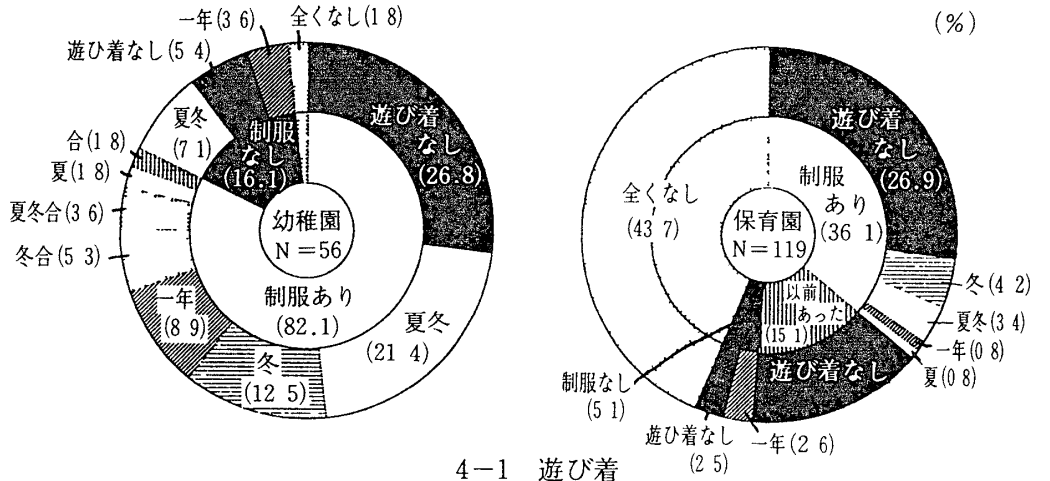
制服を着用して通園した園児たちは、遊び、食事、昼寝など園の主な生活場面では、ほとんどがそれを脱いでおり、このことは保育園において顕著に現れている。また、通園時以外には行事のある時や園外に出る時など社会的な場面において、その着用が多くみられる。

3) 制服を指定している園での遊び着、体操着の有無

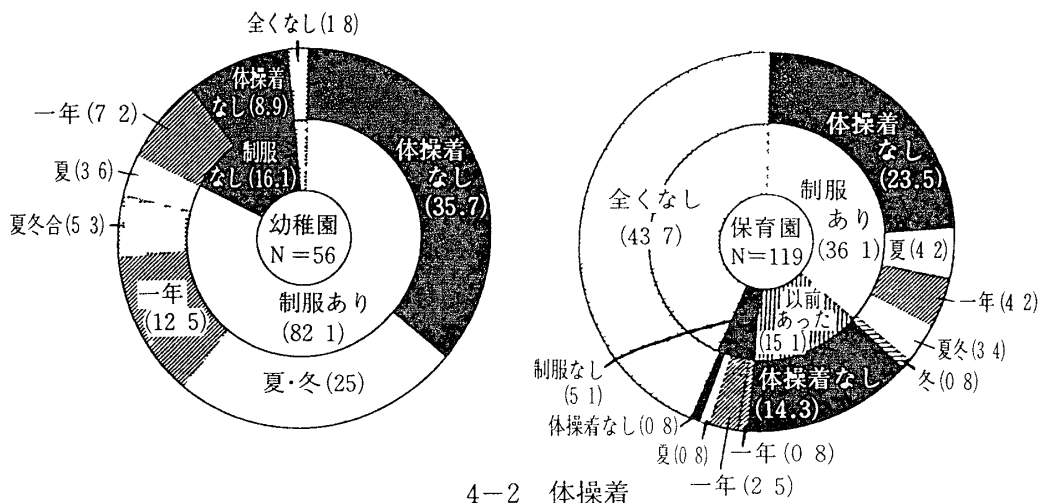
昨年の調査では、制服とは別に、遊び着や体操着を指定している園がかかなりみられ、先の結果からも遊び時間には制服を脱いでいる園が多いという結果であった。そこで、制服の有無と遊び着や体操着の有無との間に何らかの関わりがあると考え、その関係を図4に示す。

まず、遊び着についてみると、制服がある園では、幼稚園、保育園共に遊び着のない園が最も多く、夏・冬の遊び着がある園と、冬にのみ遊び着がある園とがそれに続く。制服のある園

の中で遊び着のない園の割合は、幼稚園に比べて保育園ではかなり高い値を示している また制服と遊び着の両方がない園は、幼稚園で7.2%, 保育園で48.8%であり、保育園では制服が以前にはあったが今は廃止されている園の全てでも遊び着はないという結果である。



4-1 遊び着



4-2 体操着

図4 制服の有無と遊び着体操着の有無との関係

次に体操着についてみると、制服がある園については、指定のない所が最も多いが、遊び着と比較すると、幼稚園では約10%高く、保育園ではやや低い値を示している。遊び着にみられた冬服のみの指定はなく、夏服・冬服を揃えているか、1年間共通のものを着用している園が高い値を示し、制服と体操着のない園は、幼稚園で10.7%, 保育園では44.5%であり、遊び着と似た値を示している。

遊び着と体操着については、どちらも幼稚園では半数以上の園で着用しているのに対して、保育園では1割程度しか着用されておらず、両者の園生活の捉え方に差があるものと考えられる。

## 2. 指定されている制服の形態およびディテール

### 1) 服種

制服として指定されている服種を着用季節別に表1に示す。

指定されている数は僅かであるが1年間共通のものにはスモックが多く、ジャケットを指定している園では通園時の着用を義務づけていないようである。また、エプロンを指定している

園もみられる

夏服についてはスモックあるいはブラウスを指定している園が多く、次いで汗の吸収などを考慮してかポロシャツ、シャツ類がみられる。幼稚園と保育園とを比較すると、幼稚園ではブラウスを指定している園が21園、ポロシャツ、シャツが8園と、保育園より高い値を示し、逆に保育園ではスモックが多いという結果である。

表1 指定された制服の服種（着用季節別）

(園数)

着用季節	一年共通				夏服				冬服				合服			
	幼稚園		保育園		幼稚園		保育園		幼稚園		保育園		幼稚園		保育園	
区分	計	合計	計	合計	計	合計	計	合計	計	合計	計	合計	計	合計	計	合計
服種組み合わせ																
スモック	-		4		8		10				28		4		1	
スモック+スホン	-		-		1		-			2		-		-		-
スモック+ブラウス+ズボン スカート	-		-		-		-			1		1		-		-
スモック+ランニングシャツ	-		-		-		1			-		-		-		-
スモック+ランニングシャツ+スホン	-	0	-	4	-	9	1	12	-	12	-	29	-	4	-	1
ジャケット	-		-		-		-			1		-		-		-
セーラー服	-		-		-		-			3		-		-		-
ジャケット+スホン スカート	1		-		-		-			**6		4		-		-
ジャケット+ブラウス+ズボン スカート	-		-		-		-			**15		2		-		-
ジャケット+ポロシャツ+スホン スカート	-		-		-		-			1		-		-		-
ジャケット+ブラウス+ベスト+ズボン スカート	-	1	-	0	-	0	-	0	-	26	1	7	-	0	-	0
ベスト	-		-		-		-			1		-		-		-
ベスト+ブラウス+スホン スカート	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1	-	0	1	1	-	0
ブラウス	-		-		3		2			-		-		-		-
ブラウス(ノースリーブ)	-		-		1		-			-		-		-		-
ブラウス+スホン	-		-		-		1			-		-		-		-
ブラウス+スホン スカート	-	0	-	0	*18	22	2	5	1	1	-	0	5	5	1	1
ポロシャツ	-		-		-		1			-		-		-		-
ポロシャツ+トレパン	-		-		2		-			-		-		-		-
ポロシャツ+スホン スカート	-		-		3		-			-		-		2		-
シャツ+トレパン	-		-		3		-			-		-		-		-
シャツ+スホン	-	0	-	0	-	8	1	2	-	0	-	0	-	2	-	0
トレーナー	-		-		-		-			1		1		-		-
トレーナー+スホン	-	0	-	0	-	0	-	0	1	2	-	1	-	0	-	0
エプロン	2	2	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
無回答		0		0		1		1		0		1		1		0
合計		3		4		40		20		42		38		13		2

\*2園女児はワンピース \*\*1園女児はブラウス+スカート \*\*\*1園女児はワンピース

冬服には、幼稚園でジャケットが26園と高い値であるが、保育園ではスモックが多く、対照的な結果を示している。また、ジャケットを指定している園では、ズボンやスカートの下衣も指定している所が多くなっており、更にブラウスも指定している所が最も多くなっている

合服は、スモックあるいはブラウスとズボン・スカートの組み合わせが多く、夏服のブラウスとは別のものを用意することになっている

昨年も幼稚園ではジャケットが、保育園ではスモックが多いという結果を得ているが、その傾向は今回の調査で特に冬服において顕著である。また、スモック1枚だけを揃える保育園に比べて、幼稚園では冬はジャケット、ブラウスとズボン・スカートを、夏はブラウスとズボン・スカートを指定しており、園児1人が揃える枚数はかなり多いといえる。

2) 素 材

指定されている制服の素材についてみると、上衣においては夏服、冬服、合服に、綿・ポリエステル混が最も多く使われており、それに次ぐのが夏服には綿であり、冬服にはポリエステルであった 保育園では綿・ポリエステル混がポリエステルの2倍以上あり、毛のものは上げられてはいないが、それに対して幼稚園では、両者がほぼ同数であり、更に毛あるいは毛・ポリエステル混のものが上げられている 下衣においては夏服には綿・ポリエステル混やポリエステルが多く、冬服にはポリエステルや綿・ポリエステル混の他に毛、毛・ポリエステル混、レーヨン・ポリエステル混がみられた

アレルキーの子供が増え、肌にやさしい素材が唱えられている現代において、素材の検討が進められていることは予想されるが、幼稚園、保育園の制服として、汚れが落ちやすい、乾きやすい、しわになりにくいなどの点を、かなり重視した設定をしているように思われる

3) 色

制服の色についてみると、上衣については、夏服には幼稚園で白がかなり多く、その他には水色、ベージュなど薄い色が上げられている それに対して保育園では、水色が最も多く、白と続く 白の清潔で涼しいイメージを重視している幼稚園に対して、保育園では汚れが目立つという理由からか、白が少なくなっているようである 冬服については、幼稚園では紺が最も多く、他に青、クレーがみられ、制服にジャケットが多いことによるものと思われる 保育園では紺、青、赤が出現しているが、水色、薄いクレーも同程度みられた 1年間共通では紺が、合服では白、水色が出現している

下衣については、全てにおいて紺が高い値を占め、次に青が続き、汚れが目立たない色を指定しており、幼稚園、保育園間に

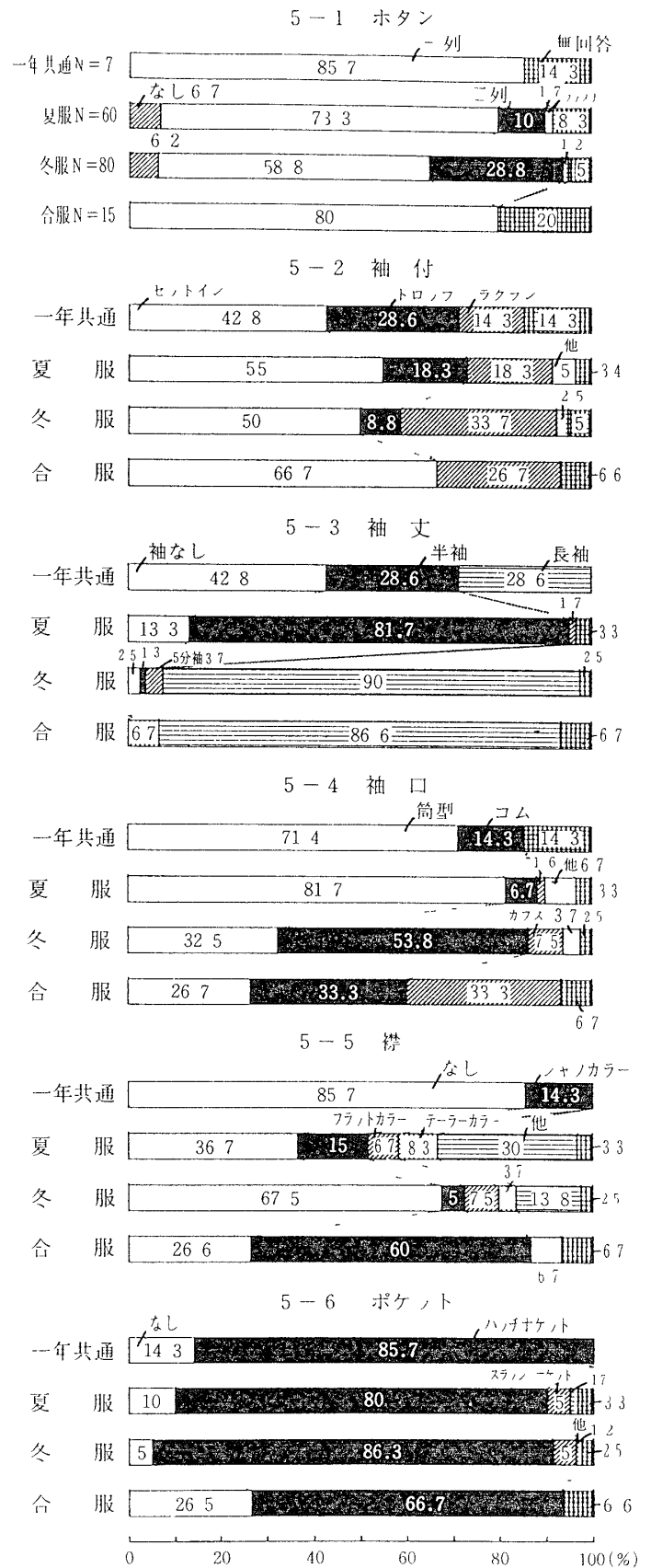


図5 制服の各種ティテール(着用季節別)

も、着用季節別にも差は認められなかった。

色についての男女間の差はほとんどなく、むしろパンツとスカート、ワンピースなど服種の違いや、ブラウスの襟の形態の違いなどで区別している園がみられた

#### 4) ボタン

子供が一人で洋服を脱ぎ着できることは、そのしつけの面からも重要なこととして考えられており、制服の明きとボタンの関係が大きい。そこで、指定された制服のボタンの付き方を図5-1に示す。全体には、1列にボタンが付けられているものが多く、冬服以外は70%を超えている。ボタンが2列いわゆるダブルブレストになっているものは、夏服に10%、冬服に28.8%みられるが、これはジャケット形式の制服に出現しており、幼稚園に多くみられ、保育園では僅かしかみられない。これらの明きは、前の途中までの明きであるポロシャツを省くと、全て前明きとなっており、かなり着脱しやすい形であるといえる。これに付けられているボタンの数については、1~7個までの出現がみられ、1列では3個あるいは4個のボタンが付いているものが半数以上あるが、幼稚園の冬服については、ダブルブレストの4個が最も多いという結果である。ポロシャツでは、ボタンは3個付いているものが多くみられる。

ボタンなしのものは、かぶる形式のものであり、夏服に6.7%、冬服に6.2%みられるが、セーラー型のものかシャツ、トレーナーであり、ファスナーは、女兒のワンピースの後ろ明きに用いられている。

かぶる形式のものや後ろ明きのワンピースのものは、年齢の低い園児が一人で脱ぎ着するには多少問題があるが、ほとんどの園で前明きで3・4個のボタンのものを指定しているということは、適切であると思われる。

#### 5) 袖の形態

次に、動きやすさとの関係が深いと考えられる袖について、袖付け、袖丈、袖口の形態を図5-2, 3, 4に示す。

まず、袖付けについてみるとセトインスリーブが最も多く、50%前後を占めており、次いで腕が動かしやすいラグランスリーブ、ドロップスリーブとなり、2つを併せるとセトインスリーブに近い値となる。幼稚園と保育園とを比較すると、夏服、冬服共にジャケットが多かった幼稚園ではセトインスリーブが多く、保育園では冬服にラグランスリーブが多いという結果である。

袖丈については、1年間共通のもので、ベストとして着用するために袖がないものがみられる。夏服については、81.7%が半袖で、袖なしは13.3%であり、冬服と合服については、どちらも長袖が85%以上を示し、残りは7分袖、5分袖である。

袖口の形態は、1年間共通のものとして夏服では袖口を開放した筒型が多く、次いでゴムが10%前後みられるが、冬服、合服では筒型は3割程度しかなく、ゴムの方が多くなっている。幼稚園と保育園との間に差が認められたのは冬服であり、ジャケットが多かった幼稚園では筒型がゴムより僅かに多く、逆にスモックが多かった保育園ではゴムが73.7%とかなり高い値を占めている。男女別にみると、女兒の値が高くなっているものに、夏服のゴムおよび冬服のカフスがある。袖口の形態は、暑い夏は筒型が多く、冬はゴムが多くなって気候に応じての設定がみられるが、手が動きやすい、物に引っかからない、下の服を汚さないなど、安全面や衛生面などの考慮も必要と思われる。

#### 6) 襟の形態

制服についている襟の形態を図5-5に示す。ジャケットなどの下にブラウスを組み合わせ

ているものに関しては、ジャケットのみの値とした

1年間共通と冬服にはジャケットが多いため、襟なしが高い値を示し、ブラウスが上げられている夏服、合服では襟付きのものが、中でもシャツカラーが多いという結果である。男児の夏服でテーラーカラーが女児より若干多くみられる

### 7) ポケット

子供服には必ず必要であるといわれているポケットの形態を図5-6に示す

どの着用季節においても、圧倒的にパッチポケットが付いているものが多く、スラッシュポケットも僅かにみられる。ブラウスが多く出現した夏服にも、ほとんどポケットがついていたものの、10%前後にはポケットがないという状況であった

### 3. 指定されている制服に対する評価

それぞれの園で指定している制服に対して、重要と考えられる12項目について5段階尺度により評価された得点の平均を、幼稚園、保育園別に図6に示す

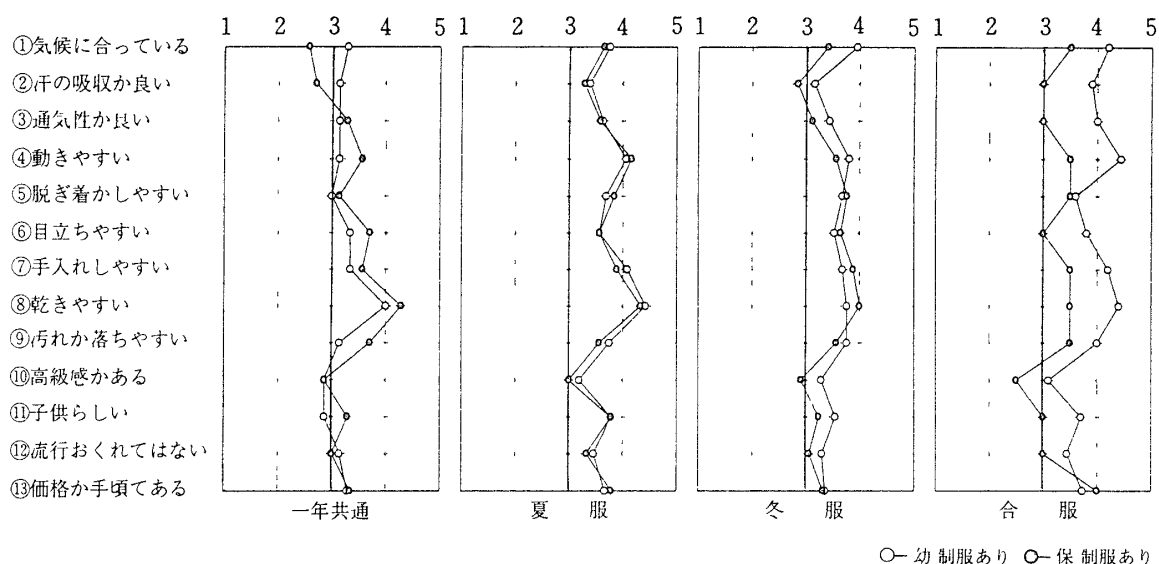


図6 指定されている制服に対する評価

全体を見ると、ほとんどの項目で3以上の評価を得ており、指定している園において制服について検討された結果を表しているものと考えられる。項目毎にみると、最も高い評価を得ている項目は「乾きやすい」であり、ほとんどで4以上の評価である。3~4の評価を得ているものは、「通気性がよい」「動きやすい」「脱ぎ着がしやすい」「目立ちやすい」「手入れしやすい」「汚れが落ちやすい」「価格が手頃である」の7項目である。また、「流行おくれでない」においても3以上を示している。「気候に合っている」「汗の吸収がよい」などの衛生面の項目については幼稚園では夏服以外では3に満たない結果となっている。

着用の季節に分けてみると、夏服については幼稚園と保育園との評価はほぼ一致しており、「乾きやすい」「動きやすい」「手入れしやすい」で高い評価を得ている。「高級感がある」「流行おくれでない」「汗の吸収がよい」については夏服の中では低い値ではあるが、全ての項目において3以上でよい評価であるといえる。1年間共通と冬服については、幼稚園と保育園とは大きな差はないが、1年間共通の制服では「気候にあっている」「汚れが落ちやすい」の2項目に、冬服では「気候にあっている」に0.5以上の差がみられた。合服に対する評価では、幼稚園と保育園とに差がみられ、「価格が手頃である」「脱ぎ着がしやすい」の2項目以外で0.5以上の差があり、特に「汗の吸収がよい」「通気性がよい」「動きやすい」「乾きやすい」の



4項目では0.9以上の差である。また「価格が手頃である」以外の項目では、幼稚園より保育園の評価が上であった。これらのことから、衛生面と機能面に関する項目については保育園の方が、デザイン面と社会性の面では幼稚園の方が良い評価を得ているといえる。

#### 4. 今後の検討予定と制服に対する意見

制服があると答えた園に対して、今後の検討について具体的に考えている事があれば記入してもらった。回答が得られたのは、幼稚園で8園、保育園で9園の合計17園であるが、制服の必要性について検討している、あるいは廃止を考えている等の意見と、形態や色、素材などの改良を検討しているなどの意見が上げられている。

更に、具体的な検討を行ってはいないが何らかの意見を持つとして、31園より回答が得られた。

内容についてみると、幼稚園で制服がある園では、利点として「生活能力を高める指導ができる」や「生活経験を身につけさせることができる」の積極的に制服を肯定した意見を上げているが、「長年着用しているからやめられない」「私服だと朝着ていく洋服を選ぶ時に大変という意見が親から出る」等の今までの習慣あるいは親の希望で制服を決めているという園や、園内での制服着用を義務付けていないという制服の指定はしているものの消極的ともいえる姿勢の園があり、その中に制服を否定する意見を持つ園もみられる。また、制服なしの園では、子供の園での生活にとって、本当に制服が必要であるかという疑問を持つ園もみられる。

保育園においては、制服のある園では幼稚園と同様、制服を肯定している意見では「親は見た目だけで私服を着せたがる」「私服はデザインを重視しすぎ機能性に欠ける」等の私服の問題点を上げている園や、「園外に出掛ける時、目印になる」等を上げている園がみられる。しかし、制服は「外見はかわいいが、活動的でない」「厚着になる」「長く着用させようと大きい物を着せ、バランスが悪くなる」等、機能面や経済面からかなり否定的な意見が上げられている。これは保育園で指定されている制服にはスモックが多いため、それ以外の服種に対して否定的な意見が上げられたものと考えられる。制服の指定なしの園については、全員が同じ物を着ることに対して、「子供には不向きだ」という意見と「集団の一人としての自覚ができる」「メンバーの一員であるという優越感を満足させる」という逆の意見が上げられている。

以上のことより、制服は同集団であることを表す物であり、しつけや社会性を育てるという利点が上げられているのに対して、私服では、子供が遊びやすいということに着目した意見が多くみられる。保育園（公立の場合）では、スモックは戦後物資のない頃の貧困時代から始まったという事から考えても、物が豊かになった現代では、当初の目的は当てはまらなくなり、制服を設定する目的などについてあらためて考えるべきであると思われる。

#### 5. 制服に対する意識

制服の捉え方として、制服の利点あるいは問題点と思われる12項目について、5段階尺度による回答を、幼稚園、保育園別に、制服あり、制服なし、以前はあった、全くなしに分け、それらの平均値を求め図7に示す。その結果、12項目のうち、「制服は着ている時間が短い」「私服の方が父兄への負担が軽い」の2項目には1以下の差であり、幼稚園・保育園、制服の有無による差はみとめられない。また「制服は着ている時間が短い」には、全てで3以上の平均値であるのに対して、「制服の方が私服を汚さないので思い切り遊ばせられる」「制服の方が動きを妨げない」「制服を着ることによって連帯感を育てられる」の3項目には3以下の平均値を示す。

幼稚園、保育園共に制服のある園の平均値は、ほぼ同じ傾向を示しているが、「制服が決ま

- ①私服に比べ制服があった方が気候に合わせて調節しやすい。
- ②園外に出掛けたとき、制服の方が目立つ。
- ③私服の方が何回も着替えられるので清潔である。
- ④制服の方が私服を汚さないで、思い切り遊ばせられる。
- ⑤私服の方が個性を育てられる。
- ⑥制服の方が動きを妨げない。
- ⑦制服が決まっていると派手になる。
- ⑧制服は着ている時間が短い。
- ⑨私服の方が父兄への負担が軽い。
- ⑩制服の方が園児らしい。
- ⑪制服を着ることによって連帯感を育てられる。
- ⑫私服だと園でも家庭と同じようにすこせる。

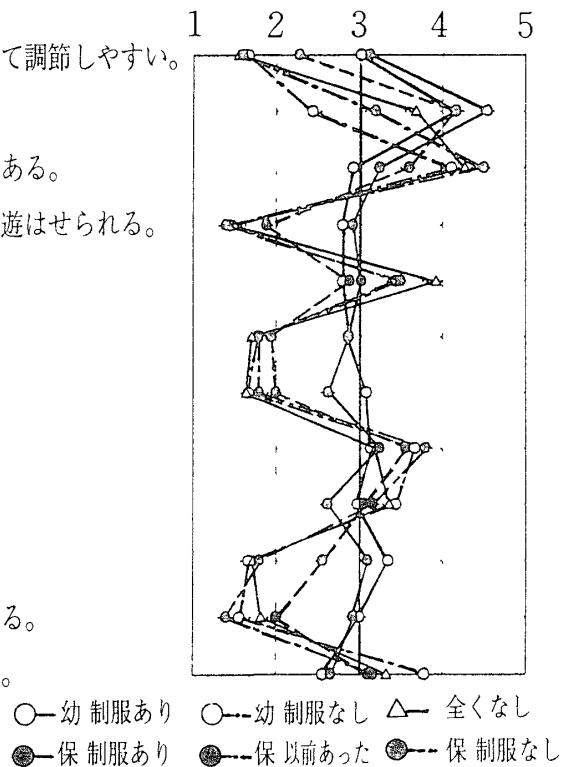


図7 制服に対する意識

っていないと派手になる」「私服の方が父兄への負担が軽い」には保育園の方がやや低い値である。これは、幼稚園と保育園とで制服の価格に差がみられたことに関係しているものと思われる。また、ほとんどの項目の平均値は3前後に集中しているが、「園外に出掛ける時、制服の方が目立つ」のみが4以上である。また制服の指定のない園についても、平均値はほぼ同じ傾向を示しており、「私服に比べ制服があった方が、気候に合わせて調節しやすい」「制服の方が、私服を汚さないで思い切り遊ばせられる」「制服の方が動きを妨げない」「制服が決まっていると派手になる」「制服の方が園児らしい」「制服を着ることによって連帯感を育てられる」の6項目における平均値は2以下と低く、「私服の方が何回も着替えられるので清潔である」では4以上と高い値であった。

以上のように、制服を指定している園では、その捉え方は評価点3前後の中間的な値に集中しており、園外に出た時の目印になることのみがやや高い値であった。これに対して制服のない園の平均値は、項目の半分以上において、制服を肯定する項目では2以下あるいは私服を肯定する項目では4以上の極端な評価となり、制服に対する否定的な意見がはっきり打ち出されている。更に、以前にはあったという園より、始めから制服の指定がない園で、顕著にみられた。

## 要 約

幼稚園・保育園の制服について、その形態と具体的な意識を捉えるために、アンケート調査を行い比較検討した。昨年調査と同様、幼稚園では制服のある園が多く、逆に保育園で制服のない園が多いという結果であり、今回更に顕著であった。幼稚園では、夏服と冬服がある園が90%以上で、夏はブラウス、冬はシャケットが多く、保育園では夏服のない所が半数近くあり、冬服はスモックが多い。素材はポリエステルが多く、管理の面を考慮してのことと思われる。

る形態では、3・4個のボタンで前明きが多く、ほとんどのポケットが付いていることは、適切であると思われるが、袖は、意外にもセトインスリーブが多かった。これらの制服に対する評価の平均は3以上であったが、衛生面と機能面に関する項目では保育園の方が、デザイン面と社会面では幼稚園の方が良い評価を得た。制服の考え方は、制服のない園では、衛生面、機能面、社会面などで、制服に対する否定的な意見がはっきり打ち出されているのに対して、制服の指定がある園では、ほとんど中間的な値に集中していた。今後、制服の検討には、着用目的と着用場面を明確にし、子供の立場に立っての改善や必要性を考える必要がある。

なお、お忙しい中アンケートに協力いただきました幼稚園・保育園の先生方に、感謝申し上げます。

### 参 考 文 献

- 1) 日本繊維新聞, 1996 8 8, 1 (1996)
- 2) 原田妙子, 長谷川紀子 名古屋女子大学紀要家政・自然編, 42, 21~32, (1996)